

## 山形大学紀要（農学）投稿規程

### （趣旨）

第1条 この規程は、山形大学紀要（農学）（以下「紀要」という。）への投稿に関する必要事項を定めるものである。

（紀要の名称及び発行方法）

第2条 紀要の名称は、山形大学紀要（農学）[Bulletin of Yamagata University (Agricultural Science)]（以下「紀要」という。）とし、毎年度1回発行し、4号をもって1巻とし通巻表示を併記する。

### （投稿資格）

第3条 投稿資格を有する者は、原則として、山形大学（以下「本学」という。）の教職員とする。ただし、定年退職した者、本学に相当年数勤務している非常勤講師並びに本学の大学院（岩手大学大学院連合農学研究科を含む。）学生・研究生及び本学の学部学生・研究生で、山形大学農学部図書館運営委員会（以下「委員会」という。）が適当と認めた場合は投稿資格を有する。

2 本学教職員以外の者と本学教職員の共同研究についても投稿を認めることができる。

### （投稿原稿の種類）

第4条 紀要に投稿できる原稿は、農林学及びその関連分野に関する原著論文、総説、資料及びその他委員会が適当と認めたもの（以下「論文等」という。）とする。なお、他誌との二重投稿は認めない。

### （使用言語）

第5条 論文等に用いる言語は、和文又は欧文とする。大きさはA4判とし、横二段の組版とする。

### （原稿の制限）

第6条 論文等の筆頭執筆者は、原則として同一年度一人一編とする。

第7条 原稿の分量は、原則として刷上り頁数で図表等を含めて和文35頁、欧文21頁以内とする。

### （原稿の作成）

第8条 原稿は、山形大学紀要（農学）原稿執筆要項により作成する。ただし、英文原稿、和文原稿の英文タイトル及びサマリーについては、事前に各専門分野のネイティブ・スピーカー又はそれに準ずる者の校閲を受けることが望ましい。

### （原稿の提出方法）

第9条 原稿は、所定の日時までに3部（うち2部はコピー可）を鶴岡キャンパス事務部学務課へ、所定の投稿連絡票を添えて提出する。

### （論文等掲載の可否）

第10条 委員会は、原著論文については、1編につき2人の審査員に審査を依頼する。

2 委員会は、原著論文以外については、原則として1編につき2人の審査員に審査を依頼する。

3 執筆者は、原稿の不備又は審査の結果、原稿の修正等の指摘があったときはこれに従うものとする。

4 委員会は、審査結果に基づき掲載の可否を判定する。

### （校正）

第11条 校正は、三校まで執筆者校正とし、原則として誤字・脱字以外の訂正、変更、削除及び挿入は認めない。

### （掲載及び別刷の経費）

第12条 掲載に要する経費は、制限頁以内であれば原則として無料とする。ただし、予算額が不足した場合は、掲載分量に応じて執筆者の負担とする。

2 次に掲げる事項に該当する場合の経費は、原則として執筆者の負担とする。

- (1) 第7条に定める制限頁を超過した分の印刷経費
- (2) 折込図表や特殊印刷（カラー写真等）を使用した場合
- (3) 50部を超過した場合の別刷経費

### （出版権の許諾）

第13条 掲載を許可された者は、本学に対し、当該論文等に関する出版権の利用につき許諾するものとする。

2 掲載された論文等は原則として電子化するものとし、次の各号に掲げるウェブサイト等を通じてコンピュータ・ネットワーク上に公開する。

- (1) 附属図書館ホームページ
- (2) 山形大学機関リポジトリ
- (3) 農林水産研究成果ライブラリ

### 附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

## 山形大学紀要（農学）原稿執筆要項

### 1. 言語及び組版

和文又は欧文とし、原則として横二段の組版（9ポ、25字詰42行）とする。

### 2. 用 紙

(1) 和文原稿は、原則としてワードプロセッサを用いて、A4判の用紙に周囲約3cmの余白を残し、25字×21行（4枚刷上がり1頁に相当）で印字する。審査終了後の原稿は電子媒体で提出すること。

(2) 欧文原稿は、原則としてワードプロセッサを用いて、A4判の用紙に周囲約3cmの余白を残し、ダブルスペースで印字する。審査終了後の原稿は電子媒体で提出すること。

### 3. 原稿の記述

(1) 述語及び記号は、各専門分野の学会が選定したもの又は、一般に慣用されているものを用い、特殊な用語やまぎらわしい記号は使用しない。

(2) 数式や化学式は途中の演算や経過を省き、必要な結果のみを整理してわかりやすく書く。

(3) 各種単位は、国際単位システムを使用する。

(4) 頁数は用紙下中央に記入する。

(5) 和文原稿は、表題、簡略表題、執筆者名、所属、欧文表題、欧文執筆者名、欧文所属、欧文要約（Summary）、本文、引用文献等の順を原則とする。所属の異なる執筆者による共著の場合は、下記の例のように執筆者名と所属にアスタリスク（\*）をつけて区別する。

執筆者の現在の所属が投稿時と異なる場合は、原稿第1頁の下欄外に現在：（欧文の場合は Present address:）に続けて記載する。

1) 原則として当用漢字、現代かなづかいを用い、それ以外は使用しない。

2) 生物の学名はイタリック体の指定（細線のアンダーライン）をする。ただし、イタリック体で印字されたものについては、この指定は不要である。生物の和名はカタカナとする。

外国の人名・地名等は、原語で表記する場合を除いてカタカナとする。ギリシャ文字、上付き・下付き等の区別は原稿に朱筆で指定する。

〈例〉

肉豚における Wet Feeding 法が肥育成績と  
体脂肪性状に及ぼす影響  
(Wet Feeding 法による肉豚の肥育成績の効果)

高橋 敏能\*・小林 満<sup>1)</sup>・萱場 猛夫\*・今田 哲雄\*\*  
\*山形大学農学部食料生命環境学科安全農産物生産学コース・  
\*\*山形県養豚試験場  
(平成 23 年 9 月 1 日受付・平成 23 年 11 月 30 日受理)

Effect of a Wet Feeding System on the Results of  
Fattening and the Characteristics  
of Adipose Tissue in Growing-Fattening Pig

Toshiyoshi TAKAHASHI\*, Mitsuru KOBAYASHI<sup>1)</sup>,  
Takeo KAYABA\* and Tetsuo KONTA\*\*

\* Course of Safe and Reliable Agricultural Production,  
Department of Food, Life, and Environmental Sciences,  
Faculty of Agriculture, Yamagata University,  
Tsuruoka 997-8555, Japan

\*\* Yamagata Prefectural Experiment Station of  
Swine Husbandry, Sakata 998-0112, Japan

(Received September 1, 2011・Accepted November 30, 2011)

#### Summary

A wet feeder to which .....

Key words : .....

<sup>1)</sup> 現在：秋田県大館農業改良普及センター (Akita Prefectural Oodate  
Agriculture Development Office, Oodate 017-0831, Japan)

キーワード：.....

(6) 欧文原稿は欧文表題、欧文簡略表題、欧文執筆者名、欧文  
所属、Summary、Key words、本文、引用文献の順とし、  
和文表題、和文執筆者名、和文所属、和文摘要は引用文献等  
の後を原則とする。

#### 4. 簡略表題 (Running title)

和文は 20 字以内、欧文はスペースを含めて 40 字以内をカッコ  
に入れて書く。

#### 5. 要 約

和文・欧文原稿につける欧文要約の長さは 250 語以内とし、欧  
文原稿につける和文要約は 1,000 語以内とする。要約の中では改  
行したり、表・図・写真・数式を引用することはできない。

#### 6. キーワード

論文の内容を適切に表現する語句を和文、欧文とも 5 語以内選  
び記載する。

- (1) 和文原稿：Summary の後に欧語キーワード、1 頁の脚注  
に日本語キーワードを記載する。
- (2) 欧文原稿：Summary の後に欧語キーワード、和文摘要の  
後に日本語キーワードを記載する。
- (3) 日本語キーワードはアイウエオ順、欧語キーワードは abc  
順に記載する。

#### 7. 文献の引用並びに注

引用方法 (文献リスト及び本文中の引用並びに注) は、次の各  
号のいずれかを選ぶものとする。

- (1) 引用文献リストは、以下のように記述する。

筆頭執筆者名のアルファベット順及び発表年順に記載す  
る。同一執筆者・同一発表年の論文は、発表年の後に a, b 等  
をつけて区別する。

青葉 高 (1967) Allium 属花きの種子発芽に及ぼす温度条件  
の影響。園芸学会雑誌. 36: 333-338.

中川昌一 (1978) 果樹園芸原論. 236-249. 養賢堂. 東京.

Schneider, M. J., R. F. Troxler and P. D. Voth (1967) Occurrence of  
indoleacetic acid in the bryophytes. Botanical Gazette.  
128:174-179.

Simms, E. L. (1992) The evolution of plant resistance and  
correlated characters. 15-16. Insect-plant Relationships  
(eds. Menken, S. B. J. et al.) Kluwer Academic Publishers,  
Dordrecht.

本文中の引用は次のようにする。

[例 1] 著者が 2 名までは姓を記し、和文誌は「・」、欧文  
誌は「and」で結び、3 名以上は筆頭執筆者の姓に和文誌  
は「ら」、欧文誌は「et al.」を付ける。

[例 2] 青葉 (1967) によれば、.....。

[例 3] ..... と報告されている (Schneider et al., 1967;  
Simms, 1992)。

- (2) 投稿論文の内容に最も関連する学会が定めた引用方法によ  
る。

#### 8. 表、図及び写真

表、図及び写真枚数は必要最小限とし、大きさは、一印刷頁  
(約 17×22cm) に納まるものを限度とする。表と図は一つず  
つ別紙に書き、本文に表・図・写真を挿入する箇所を原稿右欄  
外に朱筆で指示する。和文原稿の表・図・写真の説明 (Caption)  
は欧文で記述してもよい。

- (1) 表の罫線は最小限にとどめ、縦線は用いないことが望まし  
い。斜線はさけ、各表の上欄に表番号 (表 1, 表 2 等) と簡  
明な表題をつける。
- (2) 図は原則として、図中の文字、数字、軸の説明も含めてコ  
ンピュータソフトウェアで作成し、そのまま製版可能なよう  
にする。

各図の説明は、別紙にまとめて図番号 (図 1, 図 2 等) と  
説明文を書いてよい。

- (3) 写真は原則として、コンピュータソフトウェアで作成し、  
そのまま製版可能なようにする。

#### 9. その他

謝辞は、本文の文末に記載するか、又は章を改めて記載す  
る。

(平成 27 年 5 月 21 日 農学編集委員会)